

郷土摂津 いにしえ通信

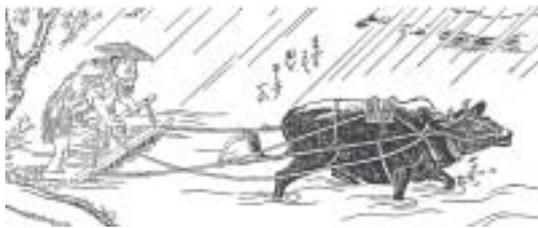
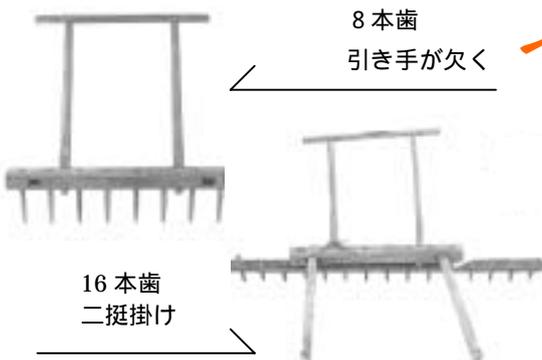
第61号 平成15年5月1日

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部生涯学習課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

TEL (06) 6383-1111 TEL (072) 638-0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>



『絵本通宝志』に見られる代掻き風景

農具

から見た

春夏
秋冬

第2回

馬鍬（まぐわ）

水を引いた田を掻きまわして土を砕き、平らにならして田植えができるようにする作業を一般的に代掻き（しろかき）といいます。摂津市域では牛に馬鍬を引かせて代掻きをしていました。馬鍬は牛馬に引かせ代掻きできるように中国の長江流域の水田地帯で開発されました。現在でも朝鮮半島、中国、東南アジアまで広く使われています。日本での使用も6世紀の滋賀堂遺跡からの出土があり、古墳時代までさかのぼります。



ちから石展

かくらべ・力試し・若者の娯楽

日時 平成15年5月7日(水)～10日(土)

午前10時～午後5時

(ただし最終日は午後4時まで)

場所 摂津市民ギャラリー

ガイド ふるさと摂津案内人

摂津市民ギャラリー

フォルテ摂津2階
JR千里丘駅
東口下車すぐ

グループ展・個展など、日頃の創作活動の発表の場としてご利用ください。

申し込み・問い合わせは摂津都市開発まで

(072) 621-0111

「力石」とは近世から近代にかけて、若者達を中心とする民衆がこれを持ち上げ互いに力くらべをした石造物です。この力石が地域の文化財として、後世に伝えられています。



ふるさと摂津案内人

摂津市には、先人達のたゆまぬ努力の積み重ねである有形・無形の文化財が数多く残っています。ふるさと摂津案内人は、これら文化財からふるさとの歴史を学習し後世の人々に伝えていく市民によるボランティアグループです。

石碑・顕彰札の紹介

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】 摂津市鳥飼中2丁目1番地先

【設置年度】 平成7年度

中世の堡「黒丸城」

『摂津志』に「一名黒丸城」とある鳥養の堡（とりで）については、その築城の年代なり由来などに関しては詳細は不明です。しかし永禄2年（1559）に三好長慶や松永久秀が鳥養に布陣したこと、また織田信長が元龜元年（1570）三好党や本願寺との合戦から引き上げ京都へ帰る途中、鳥養で軍議を開いたことなど、この鳥養の堡と何らかの関係があるようです。現在の摂津市鳥飼中2丁目に黒廻、また鳥飼下1丁目にも城ノ前、内殿、地殿などといった小字名が見られ、鳥養の堡にゆかりの深い場所と思われる。



石碑「黒丸城」



小田原城の櫓（復元図）

『日本の城・世界文化社・1996』より



第25回 埋もれた摂津市の歴史

光蓮寺所蔵の弥生土器



全高 26 cm
 胴幅 27 cm
 畿内弥生土器
 前期第1様式

昭和12年に鳥飼西700番地（現在の鐘淵化学大阪工場）をヴルツウィスラー絹糸会社が掘削したときに弥生時代の壺が発見されました。現在、光蓮寺が所蔵しているこの壺は、貯蔵用の壺ではなく、乳幼児を埋葬した壺棺の可能性があります。全面に朱が塗られ、土器を焼く前から穿孔（せんこう）と呼ばれる穴があげられていたからです。またこの壺の表面はローリング痕（流されてできた傷）がなく、元からこの場所にあった可能性があります。淀川沿いの鳥飼の地に弥生時代の集落があったのかも知れません。